

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成30年度）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	3 2 6 0 4
研究 代表者	部局	家政学部		
	職	准教授		
	氏名	上杉 幸世		

1. 研究種目名 基盤研究(C)(一般) 2. 課題番号 18K10933

3. 研究課題名 学童期小児における運動器発達と食事・生活状況との関連

4. 補助事業期間 平成30年度～令和4年度

## 5. 研究実績の概要

平成28年度～29年度に都内小学校2校において5、6年生を対象として測定したデータ(414名)について集計・分析を行った。  
その結果、身長、体重、肥満度、骨格筋量、体脂肪率においては、東京都心部と山間部の小学校では測定値に違いはなく、骨密度は、男子において山間部のほうが有意に高かったことから、校庭の広さ等の運動環境は子どもの骨密度に影響する可能性が考えられたが、筋肉量や体脂肪率には影響をあたえないと考えられた。  
性別で比較すると、体脂肪率は6年生で男子よりも女子のほうが有意に高かった。  
また、学年別に比較すると、骨格筋量および全体筋肉量は男子において5年生よりも6年生のほうが多く、体脂肪率は女子において5年生よりも6年生のほうが高いことがわかった。これらのことから、小学6年生ころから第二次性徴にともなう身体構成の変化を確認することができた。  
以上の結果を含めてさらに調査・測定を進めるため、来年度からの測定にむけて機器整備、補修をおこない、新規に購入した骨密度については測定バイアス軽減のために測定トレーニングを実施した。また、対象校の選定については運動環境等を考慮しながら研究協力依頼をすすめている。

## 6. キーワード

学童 Inbody 骨密度 食事摂取状況

## 7. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。  
理由  
研究計画通りにすすめることができた。

2 版

## 8. 今後の研究の推進方策

来年度は対象校 1～2 校について、身体計測および食事調査を実施する。また、来年度はアジア国際栄養学会が開催されるため、諸外国における小児の身体計測と体力について最新情報を得たいと考えている。

## 9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

機器購入時に相見積もりとしたことから、業者による値引きが発生したため。

## 10. 研究発表（平成 30 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Minatsu Kobayashi, Sayo Uesugi, Reiko Hikosaka	4. 巻 10
2. 論文標題 Relationship between professional employment as a practicing dietitian and health status among graduates of a department of food science and nutrition	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Medical Safety	6. 最初と最後の頁 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 上杉宰世, 小林実夏, 彦坂令子
2. 発表標題 中高年女性の健康と大学在籍時の食事摂取状況との関連：縦断研究
3. 学会等名 第65回日本栄養改善学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

1 1 . 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

1 2 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4 . 備考

-